

『響沁浴 霊性への目覚め』に寄せて

池川クリニック院長 池川明

人類はこれまで経験したことがない世界を見ようとしています。そして自然から遠ざかって生きづらくなっています。人類が自然と調和して豊かな心で過ごすにはどうしたらいいか？ その答えの一つが本書に書かれています。

人類が誕生したのは、地球の46億年の歴史から考えるとほんのわずかな時間。46億年を1年にたとえると、人類の誕生は12月31日午後11時37分です。地球からの恵みの中でこれまで人類は生きてきました。ところが地球のシューマン共鳴7・83 Hzという周波数に守られていたにもかかわらず、人類は人工的な電磁波などの影響で地球とのつながりを失いつつあるのかもしれない。

和太鼓千代組の千代園剛ちよぞのたけしさんと近藤教子さんに初めてお会いしたのは、2016年映画『純愛 JUN-ai』のイベントでした。そのお二人とは、9月3日にクリニックでお会いしたときからのご縁です。その後千代園さんの和太鼓を聴く、というより体全体で感じる機会を頂きましたが、和太鼓には体や心を癒やす作用があるのではないかと感じました。この感覚は胎児が胎内にいるときに母親の心臓から受ける音と近いのではないかと、閃きました。胎児

にとって母親の心臓の音は、安定感をもたらす重要な因子の一つです。もしかすると妊婦さんが和太鼓に接すると、お母さん自身も胎内に回帰して穏やかな妊婦生活を送れるかもしれない、生まれる前から地球と共鳴しあえるのではないかと、と考えました。

その後和太鼓千代組さんはこの世にまだ存在していなかった『響沁浴』を創り上げ、多くの人がこれを体感し、今ではその効果を心地よい体験として実感している人も多数存在します。実際に和太鼓には低音に倍音が重なり、同時に高周波の振動も加わり、さらに1/fの揺らぎもある自然の音なので、人間の乱れた周波数を地球の周波数に合わせる力があるのではないかと考えています。この力が人々の心地よさにつながっていると考えています。

そのような事実に光を当て、学術的に研究しておられる濁川孝志先生（にぎりかたかし）の存在はとても貴重です。今回濁川先生と、響沁浴を創り上げた近藤教子さんとの共著が出されたということは、人間が地球の周波数に共振、共鳴し自然への回帰ができる方法を知ることができる、ということであるのです。ぜひ多くの人に本書を手にしていただき、実際に響沁浴を体感していただくことを大いに期待しております。

【はじめに】

濁川孝志

この本のもう一人の著者、近藤教子のりこさんは僕の友人です。彼女はいつも優しく、母堂のよ
うな包容力を持った魅力的な女性です。彼女とは数多くのイベントで一緒に過ごさせていただ
いたのですが、彼女がいるだけで場の雰囲気は和みどりは明るい空気に包まれるのです。どん
なときでも物事を前向きに捉える彼女の存在は、僕らの計画が難問に突き当たり事態が硬直
したとき、どれほど救いになったことか。そんな近藤教子さんは、僕にとって心から信頼で
きる大切な人です。

その彼女に、あるとき言われました。

「濁川先生、一緒に本を書いてくれませんか」

そこに至る細かい経緯は省きますが、彼女が僕に声をかけたのは、僕が本書のテーマであ
る「響沁浴」の研究をしていたからだと思います。本書のタイトルにもなっている響沁浴と
いうのは、和太鼓千代組ちよぐみの千代園剛氏と近藤教子さんが協同で創り出した、太鼓を用いたあ
る種のアートです。これに関しては、本編で詳しく述べることにします。響沁浴をテーマに
本を書くつもりだった彼女は、自分一人で書くこともできたのですが、響沁浴の学術的

な意味や効果に關しては僕に任せただけのほうがより正確に書けると考えたのだと思います。自分の思いを本に書かせていただけるのは嬉しいし、お世話になつてゐる彼女に少しでも恩返しができる、との思いから申し出をお受けすることにしました。以上が本書誕生の経緯です。

さて、自分のことを少し書きたいと思ひます。僕は大学の教授職を数年前に定年退職し、現在は自由業です。執筆活動やたまに頼まれる講演、そして大好きな山登りやスキー、カヌーなどのアウトドアスポーツを楽しみながら日々を送る極楽トンボのような身分です。そんな僕ですが、大学教員時代はトランスパーソナル心理学という分野の勉強をしていました。このあまり聞き慣れない学問を簡単に一言で説明するならば、靈性を研究の中心に据えながら「人の生きる意味を問う」、という壮大なテーマを掲げた学問領域ということになります。もちろん僕などは、その領域の一端のまた一端を僅かに垣間見た、という程度にしかこの学問の本質を理解しておりません。しかし昨今の日本の、あるいは世界の情勢を見るにつけ、この問い、すなわち「人の生きる意味」に対する答えが今求められているのだ、という思いを強くしています。本書では、僕の研究から見えてきた響沁浴の本質や効果について述べるとともに、響沁浴と深い関連性を持つ「靈性」に關して述べたいと思ひます。と同時に、現代社会を少しでも良い方向へ導くための考え方、発想法に關して、今まで僕がこれまで学んで

きたことや先人たちの教えを参照しながら、述べてみたいと思います。以上が本書の前半で、露払いの意味も兼ねて濁川が担当します。後半は近藤さんの執筆で、響沁浴が生まれた経緯、千代組誕生までのさまざまエピソード、和太鼓にかける彼女の夢などについて語っていただきます。

何やら少し難しそうなことを書きましたが、決して難しい話はしません。この本をきっかけに皆さんが響沁浴の素晴らしさを知り、興味を持っていただければ嬉しいです。更に、人が生きる意味や現代に横たわるさまざまな問題について、皆さんが想いを馳せるきっかけになれば、著者としてこんな嬉しいことはありません。どうぞ最後まで、我々の響沁浴を巡るよもやま話にお付き合いください。